



東洋大学

東洋大学  
優秀教育活動賞  
受賞者紹介

2020

Toyo

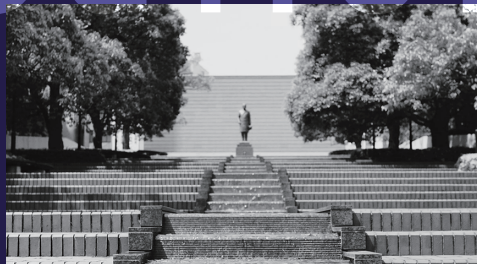
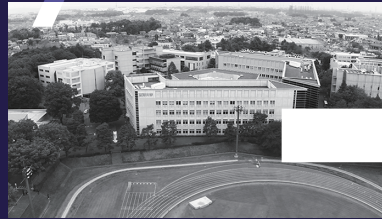
University

Award for

Excellent

Educational

Activities



# 優秀教育活動賞とは

---

東洋大学優秀教育活動賞は、2017(平成29)年度に新設された制度です。

本学で実施されている優れた教育活動(各学部の授業科目および授業に伴う教育活動)を企画実施し、

学生に大きな教育効果を与えた専任教員を表彰し讃えるとともに、

FD活動等を通じて、優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。

この表彰制度が学内のすばらしい取り組みに光を当てるきっかけとなることが期待されます。

## 2020年度受賞者

氏名	所属	タイトル
香取 慶一	理工学部 建築学科	「建築材料Ⅰ」「建築の形態とちからⅠ」 ー2020年度春学期 オンライン授業ー
安 相景 北脇 秀敏 中村 香子 沼尾 波子 久松 佳彰 柏崎 梢 佐藤 郁 ロバート ヒューズ ギャラガー ニコール 芦沢 真五 松丸 亮	国際学部 国際地域学科	「海外英語実習Ⅰ」 「海外英語実習Ⅱ」 「海外英語実習Ⅲ」
角野 立夫	生命科学部 応用生物科学科	「公害防止総論」 ー国家資格・公害防止管理者試験に向けた取り組みー
南野 奈津子	ライフデザイン学部 生活支援学科	「国際児童福祉」
樋口 貴彦	ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科	「CAD演習Ⅱ」 ー誰も取り残さない非対面演習への速やかな移行に対する取り組みー
小松 昭吾	総合情報学部 総合情報学科	コロナ禍における実践的な心理学教育と 公認心理師資格取得の補習教育
大瀬良 知子	食環境科学部 健康栄養学科	「応用栄養学Ⅰ」 「応用栄養学Ⅱ」

## ご挨拶



2020年度優秀教育活動賞を受賞された皆様、おめでとうございます。100年に一度の事態といわれる新型コロナウイルス感染症のパンデミックに遭遇し、大学における授業運営は大きな挑戦を受けました。その挑戦を真正面から受け止めて、様々な工夫を凝らして教育の質を保証し、さらに豊かな教育効果を目指して取り組んでくださった先生方の挑戦に対して、心より敬意を表し、この度の受賞をお祝い申し上げます。その取り組みを本学におけるGood Practiceとして公表し、経験を共有することを目指して本パンフレットを作成しました。

今後ますます創造的な授業展開が求められることは必須であり、教育活動の高度化に向けた情報源として、本パンフレットが大いに活用されることを期待しております。

選考委員長・学長 矢口 悦子



受賞者紹介

理工学部  
建築学科

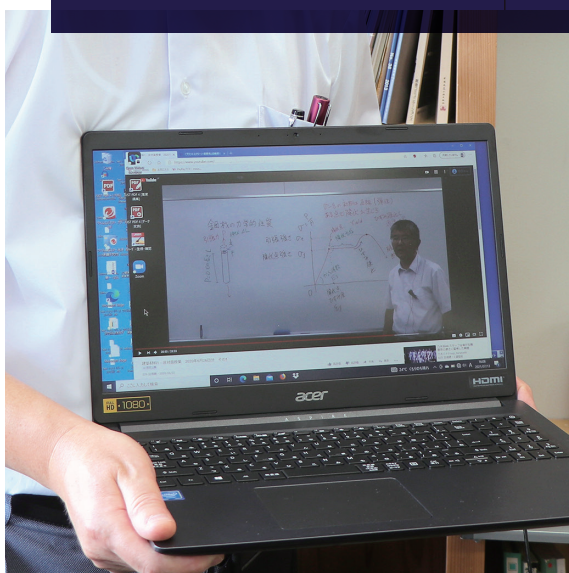
教授

香取 慶一



## 「建築材料Ⅰ」「建築の形態とちからⅠ」

— 2020年度春学期 オンライン授業 —



### 受賞授業・教育プログラム

コロナ禍におけるオンライン授業の実施で、授業の質の維持と履修学生のネット環境の格差に対応すべく、「オンデマンド型オンライン授業」の手法を採用した。「建築材料Ⅰ」では、内容の変化に応じて「PPTによる授業資料提示・PPT+音声mp3ファイル・YouTubeを使ったビデオ講義」の3種を組み合わせた。「建築の形態とちからⅠ」では、物理学(力学)のおよび数学的色彩が強い内容のため、合計36本のYouTubeによる完全ビデオ講義で運用した。両科目とも、履修学生から圧倒的な好評を得ており、コロナ禍における専門科目教育に貢献した。

### 受賞者からのコメント

突然のオンライン授業の実施でしたが、「異常な状況下でも履修する学生の不安や不満を解消し、学ぶことに希望を持たせる手法とは何か」を自分なりに考えた結果、要した手間や時間は多かったものの「オンデマンド型オンライン授業」が最適と判断し、採用しました。本賞をいただき、自分の考えが間違っていなかったと確信しました。関係各位、特にいろいろな点でバックアップして下さった建築学科および川越事務部の各位にお礼申し上げます。この経験を平時の授業の質向上に反映すべく、今後も精進していく所存です。





国際学部  
国際地域学科

- 安 相 景 (教授)
- 北 脇 秀 敏 (教授)
- 中 村 香 子 (准教授)
- 沼 尾 波 子 (教授)
- 久 松 佳 彰 (教授)
- 柏 崎 梢 (助教)
- 佐 藤 郁 (准教授)
- ロバート ヒューズ (准教授)
- ギャラガー ニコール (講師)
- 芦 沢 真 五 (教授)
- 松 丸 亮 (教授)



「海外英語実習Ⅰ」  
「海外英語実習Ⅱ」  
「海外英語実習Ⅲ」



### 受賞授業・教育プログラム

「海外英語実習」は、1年生の必修科目ですが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、海外派遣が不可となったため、オンライン+数日間の対面での実施となりました。学生は、東洋大学アチーブイングリッシュ、マレーシア科学大学、ミシガン州立大学連合ジャパンキャンパスの各コースに分かれ、約1か月半の集中学習を受講しましたが、海外派遣時と同様、110時間超の英語学習、異文化理解、課題解決型学習等も取り入れたプログラムの受講で、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力を伸ばす機会となりました。

### 受賞者からのコメント

今回の受賞を大変光栄に思います。2020年度のオンラインでの海外英語実習の成果は、これまで海外英語実習に携わってきた全ての先生方の蓄積の上にあるもので、一連の活動が評価されたものと考えています。オンラインでの調査やグループ発表には難しさもありましたが、オンラインによる授業の可能性も見いだせたと考えています。近い将来には海外派遣も可能となると思いますが、海外との接点が多い学科であるからこそ、今回のオンラインプログラムによって得たノウハウを新たな教育手法として発展させたいと考えています。





生命科学部  
応用生物科学科

教授

角野 立夫



## 「公害防止総論」

— 国家資格・公害防止管理者試験に向けた取り組み —



### 受賞授業・教育プログラム

10月に国家試験「公害防止管理者」が行われ、毎年、資格取得のプログラムを開催しています。7～8月に集中講義（本学教員と外部講師4名）と現場施設見学会（下水処理場や産業廃棄物処理場）を行い、毎年40名程度受験し、8～11名の合格者を出しています。外部講師は本学OBやOG（大手水処理メーカー勤務）で、身近な先輩の講義と水処理仕事内容の話聞き、学生のモチベーションを高めています。

### 受賞者からのコメント

この資格は食品工場や医薬品工場など廃水を排出するすべての業種に必要な資格です。受験者は工場実務のベテランが多いですが、頭が柔らかい学生に取得することを勧めています。全国で毎年3万人が受験し、合格率15%程度で、比較的難しい資格です。本学合格率は25%と高く、集中講義が一助となるとともに、本学学生の能力を大いに称賛します。生命科学部でのプログラムですが、今後、理工学部を含めた全学的なプログラムにする所存です。





受賞者紹介

ライフデザイン学部  
生活支援学科

教授

南野 奈津子



## 「国際児童福祉」



### 受賞授業・教育プログラム

子どもの貧困、難民、暴力、障がい、教育等の問題を取り上げ、各国の統計資料やメディア記事、映像などを読み解きながら理解を深めた。「途上国で苦しむ子どもたち」だけではなく「なぜそうなるのか」、そして先進国の子どもたちが直面する問題との違い、さらに世界から見た日本の児童福祉問題の学びに重点をおいた。多様なデータや資料を読み、得た学びを英語で発信する機会を通して、学生は新たな視点を得つつ、「自分ができることは何か」と考えるようになっていく姿が見られた。

### 受賞者からのコメント

この度は栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。また、本活動を支えてくださった生活支援学科子ども支援学専攻、事務課、学生の皆様に感謝いたします。世界の児童福祉問題を学ぶ中で、自身の視野の偏りに気づき、「遠い地での出来事は私たちと無関係ではない」と考えるようになっていく学生の感性の豊かさにも出会いました。こうした力を伸ばすことが、学生の人間力、かつSDGsの達成を支えるうえで重要だと思います。改善すべき点もまだ多いですが、引き続き研鑽を重ねてまいります。





受賞者紹介

ライフデザイン学部  
人間環境デザイン学科

助教

樋口 貴彦



## 「CAD演習Ⅱ」

— 誰も取り残さない非対面演習への速やかな移行に対する取り組み —



### 受賞授業・教育プログラム

CAD演習Ⅱは2次元の製図スキルを習得するCAD演習Ⅰに続く必修科目で、主にCinema4DというCAD (computer aided design) ソフトを用いて基礎的な3次元画像の作図スキルと、その画像を用いたプレゼンテーションスキルの習得を目指す2年生向けの授業です。通常、授業は大学のPC教室を用いて実施されますが、2020年度は非対面授業の実施が求められたため、受講生には自宅PCにアプリケーションをインストールしてもらいToyonet-aceとWebex通信を介して教員チームが対応し実施されました。

#### 受賞者からのコメント

授業の準備は、PC環境との適合性をアンケートとテストデータを用意して何度も確認するところから始まりました。最初は授業が成立するの不安でしたが、レクチャー動画を作成して配信すると受講生は直ぐに反応を寄せてくれました。Toyonet-aceのツリー機能をフル活用することで、受講生からの質問に系統立てて対応できるようになると、学生とのやり取りがスムーズになり、掲示板を介した情報のやり取りながら、学生の学ぶ意欲が高まっていくのを感じることができました。特定のスキルを習得する授業なのでオンライン授業との適合性はあったのですが、前年度に教室での対面授業で学生との関係を築いていたからこそうまくいったのだと、逆に対面授業の重要性に気づかされました。







受賞者紹介

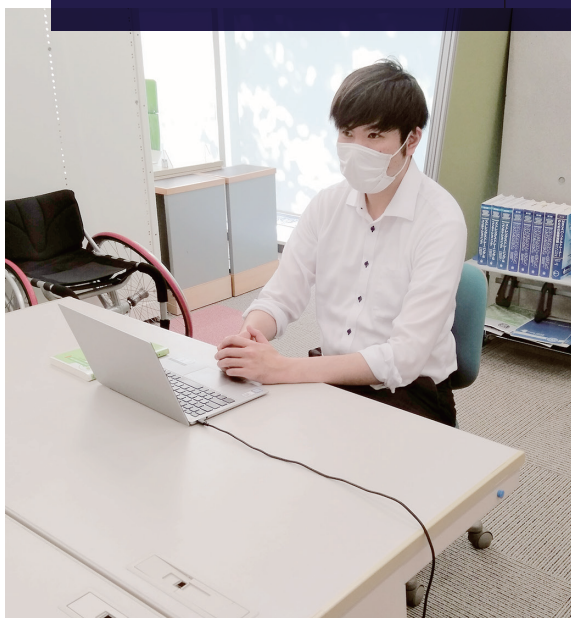
総合情報学部  
総合情報学科

助教

小松 昭吾



## コロナ禍における実践的な心理学教育と 公認心理師資格取得の補習教育



### 受賞授業・教育プログラム

「人体の構造と機能及び疾病」「社会・集団・家族心理学」「神経・生理心理学」等、公認心理師の資格取得関連（公認心理師法施行規則に定められた）科目を対象に、Webex等によるオンライン授業であっても、受講生と教員が疎にならないように、授業の配信の動画だけでなく、内容を簡潔にまとめた資料、対面授業より多くの視覚的でわかりやすく説明した資料等を活用した授業を展開。また、公認心理師関連の担当授業だけではなく、ITカウンセリング・メンタルトレーニングルームで、公認心理師の資格取得に向けた相談および公認心理師の試験対策の講習等を実施し、公認心理師の育成に貢献している。

### 受賞者からのコメント

この度は、輝かしい賞を頂戴し光栄に思います。これもひとえに、私を支えてくださった周りの先生方、そして、何より学生の皆さんとの相互のやり取りがあったからだと考えております。私は、公認心理師関連の科目に関わらせていただくことが多いですが、授業の合間での公認心理師を目指す学生との語らいから、学生が何を求めているかということを探求してまいりました。これからも、公認心理師の育成に、そしてすべての学生一人ひとりの学びと成長に、尽力できればと考えております。





食環境科学部  
健康栄養学科

准教授

大瀬良 知子



## 「応用栄養学Ⅰ」「応用栄養学Ⅱ」



### 受賞授業・教育プログラム

応用栄養学は専門科目の中の基礎的な学問に位置し、実践でも活用できる知識へとつなげる必要がある科目となっている。応用栄養学はライフステージ別の発育・発達の特徴やその時期の栄養管理について理解し活用できることを目標としている。学生にとってはなじみのない用語等が多いため、まず自分自身の体組成や血圧等のデータ、食事摂取量の把握などから実施し、講義や実習が終了した後も継続的に学習できるように促している。そして、講義や実習で学んだことを活用し、研究活動として、食品企業とのコラボレーションによるメニューの開発などへと展開している。管理栄養士としての専門性を発揮することのできるメニューの開発を行うには、研究を遂行するために必要な思考力や探究心、想像力が必要となる。これらの活動に意欲的な学生も多く、卒業研究、卒業論文の履修率の向上に貢献した。

### 受賞者からのコメント

この度は、東洋大学優秀教育活動賞をいただき、誠に光栄に存じます。2020年度はコロナ禍となり、授業や実習、ゼミの活動について、どうすればこれまでと同様の教育が提供できるのか、オンラインだからこそできる教育はないのかと、今まで以上に教育について考えることが多かったかもしれません。この受賞を励みに、日々の教育においては、学ぶ意欲の向上につながるような様々なきっかけが提供できるよう、また、卒業後に社会で活躍できる管理栄養士の養成を目指し、より一層精進していく所存です。



## これまでの受賞一覧

### 2017年度受賞者

澁澤 健太郎(経済学部 総合政策学科)  
「総合政策ゼミナールⅡA/B」「総合政策ゼミナールⅢA/B」

佐野 聖香(経済学部 国際経済学科)  
「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ」  
—食料からみる先進国と途上国の関係—

石井 由香理(社会学部 社会学科)  
「社会学基礎演習B」

寺内 大左(社会学部 社会文化システム学科)  
「社会文化体験演習ⅠA/B」「社会文化体験演習ⅡA/B」

新藤 康弘(理工学部 機械工学科)  
機械工学科における実践的なものづくり教育

吉田 宏予(理工学部 生体医工学科)  
理工学部における効果的な英語教育の実践

井ノ口 繭(生命科学部 生命科学科)  
卒業研究(生命)

佐々木 伸大(食環境科学部 食環境科学科)  
食品添加物概論

石田 実(経営学部 マーケティング学科)  
李 振(経営学部 マーケティング学科)  
「マーケティングデータ分析入門」

尾崎 晴男(総合情報学部 総合情報学科)  
三原 孝志(総合情報学部 総合情報学科)  
安達 由洋(総合情報学部 総合情報学科)  
大塚 佳臣(総合情報学部 総合情報学科)  
佐藤 忠一(総合情報学部 総合情報学科)  
村上 真(総合情報学部 総合情報学科)  
前原 真吾(総合情報学部 総合情報学科)  
椿 光太郎(総合情報学部 総合情報学科)  
「総合情報学基礎演習Ⅰ」「総合情報学基礎演習Ⅱ」

今村 肇(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
花田 真吾(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
サム 田淵(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
佐藤 節也(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
毛利 正人(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
ジェームス ハント(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
横江 公美(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
迦部留 チャールズ(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
ツオイ エカテリーナ(国際学部 グローバル・イノベーション学科)  
GINOSフレッシュアーズ オリエンテーションキャンプ

### 2018年度受賞者

佐藤 崇(経済学部 経済学科)  
「経済数学ⅠA」—“反転授業”による授業方法改革—

谷塚 哲(法学部 企業法学科)  
「スポーツビジネス論」「スポーツインターンシップ」  
—企業法学科スポーツビジネス法コースにおける学生の主体的学びの取り組みについて—

李 沁潼(生命科学部 応用生物科学科)  
「基礎化学演習」

内丸 公平(総合情報学部 総合情報学科)  
「English PresentationⅡ」とSGUルールム

藤澤 誠(食環境科学部 健康栄養学科)  
「基礎化学」における授業の効率化と  
文系出身学生のための授業改善に関する取り組み

グライアム ロブソン(国際観光学部 国際観光学科)  
ターナー マシュー(国際観光学部 国際観光学科)  
中井 文子(国際観光学部 国際観光学科)  
ハーディ ダレル(国際観光学部 国際観光学科)  
パートレリ キャロライン(国際観光学部 国際観光学科)  
ロバート ハミルトン(国際観光学部 国際観光学科)  
渡邊 勝仁(国際観光学部 国際観光学科)  
正課授業「English for Tourism IndustryⅡ」と連動した  
「ランチタイムセッション」

### 2019年度受賞者

安田 武彦(経済学部 経済学科)  
「ゼミナールⅢA」“現代中小企業を様々な視点から探る”

藤井 信幸(経済学部 国際経済学科)  
「ゼミナールⅡ～Ⅳ」“社会人基礎力”を育むための地域貢献活動の試み

安藤 和宏(法学部 法律学科)  
「専門演習ⅠA/B」「専門演習ⅡA/B」

江口 智子(生命科学部 生命科学科)  
「Integral EnglishⅠ/Ⅱ(ADVANCED b)」における  
文学作品を活用した主体性を促す英語教育

高橋 珠実(食環境科学部 食環境科学科)  
「人体の構造と機能」

志摩 憲寿(国際学部 国際地域学科)  
岡本 和彦(理工学部 建築学科)  
佐野 浩祥(国際観光学部 国際観光学科)  
神山 藍(理工学部 都市環境デザイン学科)  
柏崎 梢(国際学部 国際地域学科)  
新田 将之(理工学部 都市環境デザイン学科)  
久松 佳彰(国際学部 国際地域学科)  
松丸 亮(国際学部 国際地域学科)  
「国際地域学研修」(国際学部)  
「観光調査実習Ⅰ・Ⅱ」(国際観光学部)  
「海外研修Ⅰ」(理工学部)  
—学部を横断した連携による国内外のフィールド研修プログラムの実施—

泰田 伊知朗(国際観光学部 国際観光学科)  
ポグゲンドルフ ローレンツ(国際観光学部 国際観光学科)  
市田 せつ子(国際観光学部 国際観光学科)  
授業「日本語ⅡA,B」「文化遺産地域振興論」、  
教育プログラム「日本人学生による留学生チューター制度」

